

平成16年 8月10日

南海電気鉄道株式会社

貴志川線鉄道事業からの撤退について

南海電気鉄道株式会社（社長 山中 諄）では、このたび貴志川線（和歌山～貴志間：14.3キロメートル）鉄道事業から撤退することとし、本日（8月10日）地元地方公共団体である和歌山県、和歌山市、貴志川町に対しその旨をお伝えいたしました。

貴志川線は、日前宮、竈山神社、伊太祁曽神社などへの参詣旅客輸送を目的に大正5年に運輸営業を開始し、以来沿線の皆さまの交通手段として地域の発展に貢献してまいりました。しかしながら、昭和40年代以降のモータリゼーションの進展と近年の沿線道路網の整備による自動車への転移に加え、長引く不況や少子化等の影響もあって輸送人員は著しく減少し、ピーク時に比べほぼ半減しております。収支につきましても一貫して赤字状態であり、これまでワンマン運転や駅の無人化といったコスト削減策、冷房車両への置き換えや列車の増発などの需要喚起策を実施してまいりましたが、輸送人員の減少傾向に歯止めがかからず、抜本的な収支改善には至っておりません。

また当社及びグループ全体においても、鉄道事業の輸送人員及び収入の減少が続いているほか、長引く不況の影響を受け不動産賃貸や住宅開発事業なども苦戦を強いられております。これまで経営改善策として、要員や賃金の削減、業務の外注化、タクシーや観光バス等の不採算事業からの撤退などを実施してまいりましたが、厳しい経営環境には変わりはなく、もはや不採算部門の損失を他の部門の利益で補えるという状況ではありません。

このような状況から昨年10月以降、和歌山県、和歌山市、貴志川町に対し、貴志川線の収支等の経営状況及び当社経営による存続が困難であることなどの説明を行うとともに、当社撤退後の地域の輸送のあり方について協議を重ねてまいりました。

その間地元では「南海貴志川線対策協議会」が設立され、利用促進に向けた取り組みも行われましたが、輸送人員の減少傾向は続いており、平成15年度の収支は5億円を超える赤字と、前年度よりも赤字幅が拡大しております。また、16年度に入ってもその傾向に好転する兆しが見られないことから、もはや抜本的な経営改善のためには貴志川線鉄道事業から撤退せざるを得ないと判断するに至りました。

なお、当社撤退後に地元地方公共団体において、交通政策の一環として鉄道事業の存続等を検討をされる場合には、当社としても可能な限りの協力をしてまいりたいと考えております。

また、貴志川線と同時に協議を進めておりました和歌山港線の久保町・築地橋・築港町の間3駅につきましては、乗降人員がそれぞれ一日平均100人以下で、大量輸送機関である鉄道の特性を喪失しており、並行してバス路線が存在することから廃止することとし、あわせて和歌山県及び和歌山市にお伝えいたしました。

貴志川線鉄道事業からの撤退につきましては17年度上期末を、和歌山港線の間3駅の廃止につきましては17年度中を予定いたしております。